

平成 2 2 年度 事業活動報告

1. 埼玉支部活動全般

(1) 新組織体制の動き

- ア. 平成 2 2 年度は、役員改選のため、本部・支部とも新組織体制となった。当支部は、県会から支部組織に移行して 3 年目に入ったこともあり、徐々に軌道に乗り始めた。
なお、支部規約の改正に基づき、「支部総会」は平成 2 3 年度から「支部報告会」へと、呼称を改正した。
- イ. 全国にある 1 2 支部（台湾特別支部を除く）は、4 ブロックに分けられ、千葉・東京・埼玉の 3 支部で東ブロック支部に編成された。
第一回東ブロック支部長会は、1 2 月末にどうにか開催された。
- ウ. 本部事務所も、同じ千代田区内の二番町に 1 1 月移転する等、一般社団法人への移行に向けての取り組みが、動きつつある。
- エ. 経営士会本部 H P や「月刊誌」の整備等に伴い、情報・連絡体制の構築に向けて、各支部に“通信員”を配置することになった。
当支部では、より充実・強化を図るべく、①対会員、②本部との情報・連絡担当との二人体制で分担・実施することにした。

(2) 支部幹事会・会員連絡会

- ア. 支部幹事会は、報告会に次ぐ支部議決機関であり、月例研修会当日の午前中に開催した。
また、必要に応じて、臨時幹事会を開催した。なお、Eメール等を活用し、日常の連絡・情報交換等に、効率的な対応を心掛けた。
- イ. 会員連絡会は、研修会の始まるに 1 時間余り開催してきた。
- ウ. 支部幹事の他、より活動力を高めるべく新たに「運営委員」を任命し、ビジネス展示会等に際しての組織運営の協力体制整備をした。

(3) 公開研修会

- ア. 原則として毎月第三土曜日の午後から、従来通り開催した。
なお、M P P 方式を取り入れ、ワークショップ型セミナーで進めた。
- イ. 研修会は、本来原則オープンであり、かつ公益的事業活動の観点から 2 月の支部幹事会で『公開研修会』と表現を改めた。
- ウ. 支部総会后、東京支部の平山道雄会員を講師に招き、「経営士の資質と倫理」と題して研修会を実施した。
- エ. 第 4 4 回全国研究会論文の発表は 9 名の内 3 名が、埼玉支部会員であった。最優秀論文賞は、当支部会員が受賞した。
研究論文は、公開研修会で順次発表（9 月～1 2 月）された。
- オ. なお、2 2 年度の研修会は、以下の理由で中止した。
 - ① 1 月度 … 彩の国ビジネス展示会の準備のため
 - ② 3 月度 … 東北関東大震災による影響のため

(4) 研究会

- ア. 毎月、以下の 3 研究会で原則開催している。
 - ① C S R 研究会
 - ② アーリーバード研究会
 - ③ マネジメント・コンサルティング研究会
- イ. 月例研修会での発表等、有機的連携を深める必要がある。

(5) 公益的事業に向けた活動

- ア. 公開講演会の開催（10月16日）
テーマ 「大第変革が迫られている日本の産業構造」
講師 （株）先端力学シミュレーション研究所 大崎俊彦会長
- イ. ビジネス展示会への出展（1月26日～27日）
「彩の国ビジネスアリーナ2011」
主催：（財）埼玉県中小企業振興公社、他
共同出展：（社）日本経営士会埼玉支部、LLC経営予防総研、
（有）PMCサービス
※3団体は、出前講座へのPR、経営相談会等を含めて、「ミニセミナー」（1人／15分、26回）を実施した。
ミニセミナーの内容は、公開研修会（2月以降）で、順次講師として招き、発表することになった。
- ウ. 農商工連携等人材育成セミナー
① 実施機関 （社）日本経営士会 埼玉会場（9/24~11/21）
全国中小企業団体中央会の修了証を発行
「必須7.5時間」＋「視察・実地研修6時間」＋「選択科目10.5時間」＝24時間が条件
② 主催 （社）日本経営士会 埼玉会場（8/30~31）
経営士会の農商工連携支援専門家として、修了証を発行
2日間、12時間
- エ. MPPリーダー養成・更新研修の実施（8月7日～8日）
① 養成者 … 10名
② 更新者 … 3名
- オ. GKC（技術士会埼玉県会と経営士会埼玉支部とのコラボ）
パソナ見学会の実施（ビルにおける植物工場）
原則として、3ヶ月毎に実施。
なお、3月は東北関東大震災の影響で、中止した。
- カ. 中小企業会計・啓発セミナー
22年度は、体制が整わず（会場、講師等）開催できなかった。

(6) 会員増強活動

- ア. 推薦会員のアプローチをしたものの、うまく進まなかった
イ. 賛助会員の入会者は、2人であった（トータルで3人）
ウ. 他方、会員の高齢化傾向が目立ち、退会者の急増が見受けられる
（22年度の退会者 → 平均年齢65歳、平均在籍19年）